

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 千葉県立市川昂高等学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒272-0833
千葉県市川市東国分1-1-1

E-mail t.szkl76@pref.chiba.lg.jp

Website http://cms1.chiba-c.ed.jp/i.subaru-h/

幼児児童生徒数 男子 439名 女子 593名 合計 1032名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要数

本校は本年度、「ユネスコスクールとして、ESD、高大連携の充実によりキャリア教育の推進を図る」ことを教育方針の重点目標の一つに定め、キャリア教育の推進という視点からESDの実践を行った。

具体的には、海外からの留学生との交流事業によるグローバル教育（異文化理解、人権教育等）、高大連携による主体的に学ぶ意欲の醸成、ボランティア活動による地域への貢献等を柱とした実践である。

① 海外からの留学生との交流事業

日本語習得を目的に来日した「メロス言語学院」の学生との交流事業を年間を通じて実施した。

【5月】調理体験交流会

中国、韓国、ベトナムからの留学生を招いて、それぞれの母国で小麦粉を使用する料理を紹介し、共同で調理することを通して相互の交流を深めながら異文化を理解することができた。

【6月・11月】語学交流研修会

中国及び韓国からの留学生を招いて、本校の中国語及び韓国語の授業に参加してもらい、グループごとの話し合いを通して、本校生徒の異国の言語に対する関心と理解を深めることができた。年3回の計画であったが、10月の第2回が台風のため中止になったのが残念である。

【7月】ポーランド留学生との異文化交流会

ポーランドを中心に数か国からの留学生を招いて、本校ユネスコ委員との日本文化体験授業を行った。折り紙などを通じてコミュニケーションを図る中で相互の国の違いや共通点について理解を深めることができた。

② 高大連携の取組

7月、ユネスコ委員が東京海洋大学で行われた「海の日スペシャル！第1回高大連携グローバルワークショップ」に参加し、大学生と協力し合って、国際的なテーマで行うプレゼンテーションコンクールに出場した。結果は最優秀賞を獲得し、自ら考え、表現する学びへの意欲を高めることができた。

③ ボランティア活動による地域への貢献

夏季休業中にユネスコ委員が、近隣の小学校で行われた学習会に指導補助員として参加し、小学生の学習のチューター役を果たした。また、吹奏楽部合唱部、ダンス部が、二つの近隣自治会の夏祭りと秋祭りに参加し、部活動の成果を披露したほか、運営の手伝いも行った。これらの活動を通じて、生活の場としての地域という存在への理解を深めることができた。



① 調理体験研修



① 折り紙交流



② プレゼンの様子

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

教育課程の中では、各教科の中に位置づけるのは難しく、特別活動の中に位置付けている。主に生徒会の委員会活動としてユネスコ委員会を設け、ここがユネスコスクールとしての活動の中心となっている。

指導内容は試行錯誤しながら適切なものとなるよう改善を試みているが、目下の課題はE S Dの活動が全校的な取組となるまでには至っていないことである。生徒や職員のE S Dに対する理解を深める場と共通認識を形成する場の必要性を強く感じている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

昨年度まではE S Dの活動を教頭主体で先導していた部分が大きかったが、本年度からは職員組織であるユネスコスクール推進委員会と生徒会の中のユネスコ委員会の活性化に向けた取組をしているところである。

しかし、E S Dに対する全校的な共通認識を形成できていない中で、ユネスコスクールを組織的かつ継続的に推進していくことの難しさを感じている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

内部評価としてはユネスコスクール推進委員会において、年度末に総括を行い、当該年度の成果と次年度に向けた課題を職員の間で共有している。

それぞれの活動についての成果が、目に見える形で生徒の変化として表れてこないのが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

活動成果の発信方法として主に、それぞれの活動の内容について、本校のホームページに掲載した。効果と呼べるかは定かではないが、PTAの会合等で掲載内容について評価する声を耳にすることも多い。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

市川市のユネスコ協会や国際交流協会と連携し、市川市の姉妹都市からの使節団との交流事業を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

取組を行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

特筆すべき内容はない。

（3）平成 30 年度の活動計画

平成 30 年度の活動計画も本年度同様、海外からの留学生との交流事業によるグローバル教育（異文化理解、人権教育等）、高大連携による主体的に学ぶ意欲の醸成、ボランティア活動による地域への貢献等の中心的な柱に変わりはない。

変更点としては、衛生管理上の問題から調理体験交流会を中止し、ESDの活動により多くの生徒が取り組めるように、第 1 学年全体を対象とした「メロス言語学院」との交流事業を新たに開始することである。今後、学年規模の活動を増やす方向を模索する契機としたいと考えている。